

2019 年度聖路加国際大学大学院看護学研究科

修士課程・課題研究

日本の女性の非正規雇用者が抱える困難に関する文献レビュー

Literature review on difficulties for female non-regular
employees in Japan

学生番号 18MN012

氏名 爲水望未

論文要旨

【目的】女性はライフイベントの中に、妊娠・出産・子育てといった、ライフイベントに男性よりも影響を受けることが考えられ、雇用形態にも大いに影響することが考えられる。女性の非正規雇用者が、非正規雇用で働くがゆえに抱える困難について、顕在化・潜在化を含めた困難を明らかにすることにより、今後の産業保健師の産業保健活動の示唆を得ることを目的とする。

【方法】文献は、医学中央雑誌 Web、CiNii を用いて検索した。検索に使用したキーワードは、2019 年 12 月時点で、和文献は、「非正規雇用」と「女性」を AND で組み合わせて検索を行った。出版期間は、2010 年から 2019 年の間に限定した。検索結果より、論文内容が本研究の目的と一致する研究は、ハンドサーチにより 1 件該当文献を含め、本研究で取り扱う文献は計 24 件とした。採用された文献の概要の記述、文献に記述されている女性の非正規雇用者が抱える困難に関する文脈の抜粋、文脈から困難のカテゴリーを抽出した。

【結果】女性の非正規雇用者が、非正規雇用で働くがゆえに抱える困難については、分析対象文献において合計 127 のコードが抽出された。また、そこから 28 のサブカテゴリーが抽出され、10 のカテゴリーに分類した。抽出されたカテゴリーは、【今後の見通しが立たないことで生じる将来への不安】、【仕事の裁量権が低く、自分に合わない過重労働を要求される】、【正規雇用になりたくてもなれない】、【職場で公平・平等に扱われない】、【希薄な人間関係になりやすく、仕事に支障をきたしやすい】、【経済的に余裕がなく、日々の生活にも余裕がない】、【「労働力（物）」としてみなされ、「人」としての支援がされにくい】、【仕事で活躍したい思いと社会から求められる女性としての役割の葛藤】、【非正規雇用以外の選択肢がほかにない】、【産休・育休制度があっても本人に届かない】であり、相互に関連している。

【結論】我が国の女性の非正規雇用者が抱える困難は、非正規雇用者に共通する困難に女性の社会的な困難が加わり、困難に拍車をかけていた。非正規雇用者の困難を解決するためには、社会的側面からの支援と非正規雇用者に直接関わり支援両面から行う必要がある。非正規雇用者への産業看護職が支援として、非正規雇用者の置かれている状況に応じた適切な支援を行っていく必要があり、非正規雇用者の個別性やニーズを踏まえた支援が必要であることが考えられる。また、非正規雇用者本人のみならず、非正規雇用者に関わる周囲の労働者に対しても、情報提供等の支援を行っていく必要があると考えられる。